

講義名	パーソナリティ論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	銅直 優子		
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 1時限		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		講義コード	21030

主題と概要

私たちは、個人の考え方や行動の仕方に一貫した傾向を見出し、「Aさんは社交的な人だ」、とか「Bさんは神経質な人だ」などと表現する。このように、個人の思考や行動を特徴づける一貫した傾向をパーソナリティという。本講座では、パーソナリティがどのように形成され、どのように我々の社会生活に影響を与えるのかについて学んでいく。また、我々のパーソナリティを客観的に理解していくために、どのような方法があるのかを学んでいく。講座の中では、実際に自己のパーソナリティを測定し、その結果についても分析していくことで、自己理解を深めていく。

到達目標

パーソナリティがどのように形成されるかを理解することができるようになる。
 パーソナリティをどのように測定するのかを理解することができるようになる。
 パーソナリティにはどのような側面があるのかを理解することができるようになる。
 パーソナリティが我々の社会生活に与える影響を理解することができるようになる。
 自分のパーソナリティ特徴について客観的に理解することができるようになる

提出課題

授業中に適宜指示する。

評価の基準

中間テストと授業中の提出物（40％）授業中に2回程度のテストを実施
 定期試験（60％）

履修にあたっての注意・助言他

第1回目の講義では本講座のルールを説明するため、必ず出席すること。
 基本的なマナーを守って受講すること。守れない場合には、講義への出席は認めない。
 <マナー>
 ・私語をしない。
 ・携帯電話の電源を入れたままにしない。
 ・その他、他の人の迷惑になるような行為はしない。
 板書や呈示資料のみを書き写すだけのノートではなく、口頭説明から理解できたことについてもしっかりとメモを取るノート作りを心がけること。

教科書

.使用しない。

プリント資料及び参考文献

・プリントを適宜配付する
 【参考文献】
 ・梅本堯夫・大山正 監修（2003）「性格心理学への招待」（改訂版）サイエンス社
 ・清水弘司（1998）「初めて触れる性格心理学」サイエンス社

授業計画

第1回：パーソナリティとは：性格と人格
 第2回：パーソナリティの発達：パーソナリティの発達に遺伝と環境がどのように関わっているのかを学ぶ
 第3回：パーソナリティの発達：パーソナリティの発達に遺伝と環境がどのように関わっているのかを学ぶ
 第4回：類型論と特性論：血液型と体型
 第5回：類型論と特性論：特性論の種類
 第6回：類型論と特性論：性格の因子数（性格にはいくつの側面があるのか？）
 第7回：パーソナリティの理論と実際 5因子性格検査
 第7回：パーソナリティの理論と実際 Y-G性格検査
 第8回：パーソナリティの理論と実際 作業検査
 第9回：パーソナリティの理論と実際 投影検査
 第10回：パーソナリティの理論と実際 性格検査まとめ
 第11回：対人魅力 -好まれる人と嫌われる人-
 第12回：対人魅力 -類似説と相補説-
 第13回：対人コミュニケーション
 第14回：自己意識と自尊心
 第15回：健康とパーソナリティ
 * 第6回目と第10回目に中間テストを予定している（授業内に説明）

予習・復習

予習時は、参考文献にしっかりと目を通してもらうことが望ましい。もしくは、自分で読みやすい「性格心理学」「パーソナリティ心理学」などの書籍に目を通すこともよい。予習の際には、授業計画を参考にし、関連するテーマに絞って熟読するのが良い。
 復習時は、授業内で示すキーワードを理解できているかを確認し、理解できていない場合は、参考文献を活用し、調べなおして欲しい。また、配付プリントに質問問題が用意されている場合があるが、その部分についても、更に調べ直して復

備考